

血管撮影室における多職種向け被曝低減カンファレンスの実施報告

【目的】血管撮影室の各職種向けに被曝に関する勉強会を開催する事で、被曝低減に対する意識改革を促し、患者・従事者に優しい施設を目指す。【方法】2009年1月から2012年12月の個人線量計着用状況と測定結果を基に資料を作成、各職種向けに現状での問題点と改善方法を説明した。【結果】2009年度1回、2010年度2回、2011年度2回、2012年度3回の合計8回の勉強会を開催し、線量計の着用率向上と患者・従事者の被曝低減を働きかけた。着用状況が2009年は医師、放射線技師、臨床工学技士の着用率が50%以下だったが、2010年以降は各職種とも向上し、医師、看護師、放射線技師は100%となった。測定結果では2009年に看護師3名が年間実効線量20mSvを超過(42.2mSv、35.3mSv、24.7mSv)していたが、2010年以降は超過する者はいなかった。【考察】着用率向上には、まず線量計装着の意義と正しい装着方法の理解が必要と考える。従事者被曝低減には線量分布や撮影方法、手技内容による線量の高低の理解と、防護具の有効な使用方法についての知識が必要と考える。【結語】2009年時点での当院血管撮影室従事者の被曝低減に関する意識はゼロであった。この壊滅的な現状を打破するべく、今後も放射線技師として患者・従事者被曝低減のために勉強会を通じた啓蒙活動を続けていきたい。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号